

# 令和5年度府中市立浅間中学校 学校経営計画

府中市立浅間中学校  
校長 神谷 出

## 1 目指す学校 「地域とともにある、安全・安心で活力にあふれた一体感のある学校」

- 生徒一人一人が自他の生命の尊さを理解し、互いの差異を認め合い、自分を大切にするとともに他の人の大切さを認めていく心を育てていくことのできる学校を目指す。
- 学校で行う全ての教育活動を通して生徒一人一人を大切にす理念が具現化され、生徒を第一に考える視点に貫かれた学校を目指す。
- 生徒、教職員、保護者、地域が互いの役割を認識して生徒の学びを支え、ゆるぎなく教育活動に邁進できる環境を整備する。

## 2 中期的目標と方策

学習指導要領の趣旨を実現するため、学校、保護者、地域社会がそれぞれの力を活かし、一体となって教育活動の充実を図ることによって、生徒の主体的な学びを促進し、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた生きる力を身に付けた生徒の育成を目指す。

そのため、東京都授業改善推進拠点校3年目として「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導と評価の具体化と全ての教科で取り組む学習方法等について整理し、実践研究をまとめる

また、生徒の状況に応じた指導を展開するため、生徒一人一人の教育ニーズに応じた系統的な指導を行うように努めるとともに実行力のある学校組織を構築する。

さらに、市教育委員会、地域や保護者、関係諸機関が、トータルバランスの上に立って各々の役割を果たしていくことができるよう連携体制を確立するとともに生徒に対する支援の充実を図る。

### 【方策】

- ① 学習指導、生活指導、進路指導など、学校の教育活動のあらゆる場面で、生徒の主体性が発揮できる場を可能な限り数多く設定する。特に、自己決定の場、集団決定の場を効果的につくっていくことで生徒が主体的に取り組むことのできる教育環境を形成する。
- ② 一人一人の生徒の個性や特性を認め効果的な支援を行うために、きめ細やかな生徒理解を行うとともに質の高い特別支援教育や教育相談が実行できる学校組織を構築する。  
特に、校内委員会や不登校対策委員会の充実を図るとともに、各活動におけるユニバーサルデザインの推進に重点を置く。
- ③ 生徒のニーズに対応するために、スクールソーシャルワーカーや府中市子育て世代包括支援センター「みらい」、府中警察、多摩児童相談所等との関係機関との連携を円滑に行うことのできる学校組織を構築するとともに、学校を中心軸にした支援体制が構築できるよう校内体制を整備する。

### 3 今年度の活動計画

#### (1) 各教育活動の計画

##### ① 教科・領域等

各教科の目標の実現に向け、生徒の学びに向かう力を育てる指導の推進を図る。

- 各教科において「主体的に学習に取り組む態度」を育む指導と評価の具現化を図るため、年間を通してルーブリックを全ての教科で作成・活用し、1月に研究発表会を開催することで、東京都及び府中市内の小・中学校に成果を還元する。
- 年間を通して、生徒の思考力等の育成のために問題解決型の学習に取り組み、思考の過程を振り返り調整する機会をどの教科においても設定する。
- 年間を通して、各教科で単元計画を工夫し、生徒が提示するルーブリックを参考にし、自らの到達状況を把握して調整する機会を提供する。
- 週1回の道徳を重視し、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して道徳的価値を多面的・多角的に考え、自分自身との関わりの中で理解を深めさせる。
- 家庭学習が知識・技能の定着だけでなく、思考力を育てる機会となるよう工夫する。

##### ② 進路指導・特別活動

- 学校の年間計画に基づいて実施される高校への進学指導や職場体験などの取組を活用し、自己の生き方や適性について考えさせたり職業や働き方などについての知識や見方を育てたりする機会とする。
- よりよい人間関係の構築や社会の中の一員としての役割を自覚し責任感等を育成することを目的とし学校行事、生徒会活動及び部活動を生徒主体で実施する。
- 生徒の主体的取組を推進し、生徒会や委員会等の自治活動を活性化するとともに行事の企画や運営などに取り組みさせる。また、地域行事やボランティア活動等に積極的に取り組む機運を醸成する。

##### ③ 生活指導

- 生徒の自己指導能力を育成することを生活指導の目標にし、年間を通して、学習指導だけでなく、各行事や生徒会活動等の特別活動の取組において、生徒が自分で判断する自己決定の場を効果的に設定していく。
- 特別支援教育及び教育相談が生徒理解に基づいて効果的に行われるよう、校内委員会と不登校対策委員会をそれぞれ隔週で実施し、教員の情報共有を行うとともに生徒に対するアセスメントによる支援の在り方を協議する場を設定する。また、取組の成果を検証する場としても各委員会における協議の充実を図る。
- 不登校対策では、サポートルームの有効的な活用を図るために、サポートルームのマニュアルを4月に作成して全校に周知する。また、その際、個別のアセスメントシート（支援シート）を作成し、月に2回の不登校対策委員会でサポートルームの活用成果を検証していく。不登校出現率を4.0以下にする。
- 防災に関する基礎的な知識と態度を培うとともに、自分の身は自分で守ることができるよう、実践的な安全指導や避難訓練を工夫して行なう。  
また、年間2回もしくは3回、府中市防災危機管理課や地域の自治会と連携し、地域防災にかかわる会議を開催する。

(2) 学校の働き方改革等について

働き方改革は、単なる時間短縮ではないメリハリのある働き方についての意識の醸成を図る。時間外に月80時間を超える教員をゼロにする。

また、教育公務員としての自覚のもと、サービスの厳正に基づき、生徒・保護者・地域との信頼関係を築くよう職務を遂行する。

さらに、会議の効率的な運営や働き方は意識改革が重要である事を教員に自覚を促すとともに、週休日や定時退勤日を活用する。

(3) G I G Aスクール構想への対応と授業改善

反転学習を導入し、家庭学習の質の向上を図る

昨年度、タブレットでの10分間の動画等による予習的家庭学習を、教科を限定して行い、生徒の反応の良さや授業において考える時間を設定できる時間を多く設定できたことから、今年度はこの取組を継続しつつ必要に応じて拡大する。

取組に有用性が見られたところで、動画配信の頻度を増やし、予習に重点をおいた動画にするなど、一層の充実に向けて、年間を通して計画的に実施、検証する。